講習名	中根千枝の日本文化論・『タテ社会の人間関係』を知識社会学的に読んでみる
内容	日本文化論の古典であり、世界で最も多く翻訳されている中根千枝の『タテ社会の人間関係』を、戦後の「日本文化」論の流れの中に位置づけながら読む。彼女が論じた日本人の人間関係のあり方について確認しながら、それが未だ一定の説得力をもつものの、その一方、本書で日本文化独特のものとされる人間関係のあり方が、現在10～20代の学生さんには受け入れがたい側面を多く持つことを確認する。親の世代と同様な社会観を持てない生徒の立場から、我々が「あたりまえ」だと思ってしまっている社会のあり方を捉えなおす試みでもある。
担当講師	水津嘉克
開講日	8月18日（水）
受講料	6,000円
対象職種	教諭
主な受講対象者	中・高等学校教諭
受講定員	40名
試験の方法	筆記試験
到達目標	40歳以上の人間が自明視している日本社会や人間関係のあり方を、中根千枝の議論を通して再考し、低成長時代に生きる今の若者がそれをどう捉えているのかを理解するための知識を習得する。
受講者への連絡事項	筆記用具持参

時限	時間			分	種別	担当講師	内容
―	9:00	～	9:10	10	―	水津嘉克	オリエンテーション
1	9:10	～	10:10	60	講義	水津嘉克	「**文化」とは何か？
2	10:20	～	11:20	60	講義	水津嘉克	戦後「日本文化」論の変遷
3	11:30	～	12:30	60	講義	水津嘉克	中根による「日本文化」論の位置づけ
4	13:30	～	14:30	60	講義	水津嘉克	中根による「日本文化」論：資格と場
5	14:40	～	15:40	60	講義	水津嘉克	中根の議論から日本独特な雇用関係に関して考える（近年の雇用状況の変化を考慮しつつ）
6	15:50	～	16:50	60	試験	水津嘉克	筆記試験
―	16:50	～	17:00	10	―	水津嘉克	事務連絡等